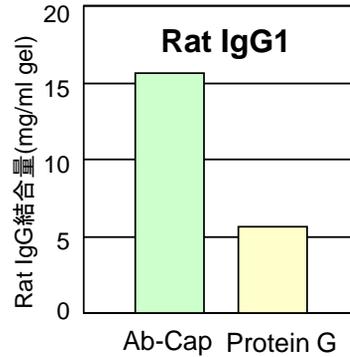


Ab-Capcher™を用いた ラットモノクローナル IgG₁の精製

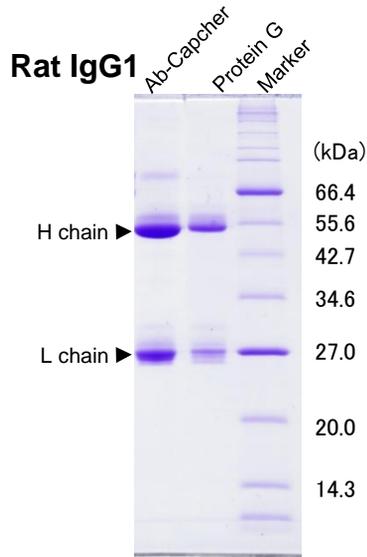
精製の流れ

ラットモノクローナル抗体含有腹水
↓
PBS にて3倍希釈
↓
アフィニティゲルに添加(スピнкаラム)
↓
振とう(2時間)
↓
洗浄 (PBS)
↓
0.1 M Glycine-HCl (pH 2.8) にて溶出
(1 M Tris を添加して中和)
↓
4 bed vol.をプール

各種アフィニティゲルのラットIgG結合量



各種アフィニティゲルで精製したモノクローナルIgG画分の分析



SDS-PAGE

サンプル: 各ラットモノクローナルIgG溶出画分 1 μL
ゲル: 12.5% (Tris-Glycine)
染色: CBB

ヌードマウスにて産生したラットモノクローナルIgG₁ 含有腹水をPBSで希釈し、2種類のアフィニティゲル担体にそれぞれ直接に添加し結合させた。Ab-Capcher は腹水中のラットIgG₁に対して、プロテインGゲルの約3倍の結合量を示した。精製画分に夾雑タンパク質の混入はほとんど見られず、高純度のIgGを精製できた。

以上の結果より、マウス腹水からのラット抗体精製において、Ab-Capcher はProtein Gよりも多くのラットIgG₁ を精製できることがわかった。

プロテノバ株式会社

〒769-2604
香川県東かがわ市西村1488番地1
TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703
ホームページ <http://protenova.com>